

第6回静岡駅南口駅前広場再整備検討委員会 議事録			
日時	2025年3月19日(水)14:00-16:00		
場所	静岡庁舎本館 3階議会特別会議室		
委員	氏名	所属・役職等	専門
	中村 英夫	日本大学 理工学部 教授	都市計画
	須藤 智	静岡大学 グローバル共創科学部 教授	地域活性化 ・ 行動心理
	三浦 詩乃	中央大学 理工学部 都市環境学科 准教授	都市・地域デザイン
	平井 崇士	東海旅客鉄道株式会社 総合企画本部企画開発部担当課長	交通事業者
	鈴木 拓翔	静岡南警察署 交通課交通規制係長	交通管理者
	中村 直保	静岡市自治会連合会会長	地域代表
	名波 昌巳	駅南銀座振興会会長	地元経済活動代表者
	田代 卓靖	公募委員	市民公募
	浅野 美幸	公募委員	市民公募
	安本 花梨	公募委員	市民公募
	増田 郁理	公募委員	市民公募
	井藤 喜美江	NPO 法人男女共同参画フォーラムしずおか 理事静岡市女性会館館長	女性 ・ 子育て
	牧野 善裕	特定非営利活動法人 静岡市障害者協会会長	バリアフリー
	根来 晃司	商業組合静岡県 タクシー協会静岡支部長	交通事業者
	藁科 孝佳	しずてつジャストライン株式会社 取締役運行企画部長兼輸送計画室長	交通事業者

発言者	議事
	(提出資料) 資料0-1 次第 資料0-2 委員名簿・席次表 資料1 パブリックコメントの結果概要 資料2 意見のまとめと対応方針 資料3 パブリックコメント修正後の基本計画（案） (次第) 1. 開会 2. 委員の紹介 3. 都市計画部長 挨拶 4. 議事 「静岡駅南口駅前広場再整備基本計画（案）」について 5. 各委員から一言 6. 閉会 7. 今後のスケジュール 3月末に「静岡駅南口駅前広場再整備基本計画」策定・公表
「静岡駅南口駅前広場再整備基本計画（案）」について	
中村(英)氏	それでは第 6 回の委員会です。お手元の次第に従って進めてまいりたいと思います。4 番の議事ということで、この基本計画（案）についてということですが、本日は先ほどお話がありましたようにパブリックコメントあるいはオープンハウス等で頂いたさまざまなご意見、これらを反映していただいて今お手元の案という形になっているかと思いますので、こちらを議論いただくということです。まずは事務局から資料の説明をお願いします。
事務局	景観まちづくり課、有賀です。それでは説明を始めさせていただきます。事務局ではこれまでの委員の皆さまとの議論を取りまとめた静岡駅南口駅前広場再整備基本計画（案）について市民や利用者の皆さまのご意見を広くお伺いするパブリックコメントを実施しました。本日はパブリックコメントで頂いた意見とその対応についてご紹介した後に、改めてパブリックコメントを反映させた再整備基本計画（案）について説明し、委員の皆さまと基本計画策定に向けた議論をしていきたいと考えています。 お手元の資料 1 をご覧ください。今回のパブリックコメントは令和 7 年 2

	月 7 日から 3 月 10 日までの期間実施し、83 名の方から合計 173 件のご意見を頂きました。ご意見の大半は再整備後の広場にこういう施設、機能を設置してほしい、このようなデザインにしてほしいといったご要望でしたが、基本計画（案）で示した再整備案に反対のご意見を 8 件頂きました。頂いた全てのご意見は参考資料としてお手元にお配りしています。 頂いたご意見を類型化してまとめた資料をご用意しましたのでこちらで説明をしたいと思います。お手元の資料 2 をご覧ください。頂いたご意見の中で一番多かったものは広場施設、デザイン、使い方に関するもので、「駅前広場をイベントや遊びの場にする必要性が理解できない」という反対意見が 1 件、「コンコースを出たら開放的で長く滞在したくなるような空間にしてほしい」といったものや、喫煙所やモニュメントについてのご意見と合わせて全部で 46 件ありました。 「駅前広場をイベントや遊びの場にする必要性が理解できない」というご意見については、「今回の広場整備は人と車両方が使いやすい広場を目指し、その方策の 1 つとして歩行者のための空間を確保するとともに、確保した空間でさまざまな活動を行うことを検討しています」という回答を考えています。その他のご要望については今後再整備基本計画で示した方向性を実現するため、広場のデザインや使い方などを示す整備計画案を作成する予定ですので、広場施設、デザイン、使い方についてのご意見に対しては「頂いたご意見等を参考にしながら、整備計画案の作成を予定しています」という回答を考えています。またコンコースを出た空間の開放感については、特に重要であることから、基本計画へ記載することとしました。 次に多かったご意見は広場交通機能に関するもので、「自家用車の乗車スペースが 15 台では不十分だと思う」や「まちのロビー空間は無駄なスペースで、自家用車スペースは再整備案の 2 倍以上あっていい」といった反対のご意見が 4 件。「駐輪場スペースを検討してほしい」といったご意見と合わせて、全部で 24 件ありました。「自家用車の乗車スペースが 15 台では不十分だと思う」等のご意見については、現在のロータリーの混雑の主な要因が乗車目的の長時間駐車であると考えているため、「乗車専用スペースは頂いたご意見等を参考に可能な限り台数を確保したいと考えており、また新たに降車専用スペースを設けることで効率的な利用ができるロータリーを目指しています」という回答を考えています。これを踏まえ、基本計画の自家用車施設利用の考え方の説明を分かりやすい記載に変更します。 駐輪施設のご意見については、「現在静岡駅周辺に市営駐輪場が 5 か所あり、駐輪台数に余裕があることから、現時点で南口駅前広場の再整備に合わせ新たに広場内に駐輪場を設ける予定はありませんが、周辺駐輪場と連携して自
--	---

	転車利用者に駐輪場の周知を図っていきます」という回答を考えています。駐輪場の利用状況や方針については、基本計画に追加で記載をします。 次に多かったご意見が周辺交通に関するもので、自家用車ロータリーへの流入経路の限定による渋滞や泉町豊原町線の分断による渋滞といった駅周辺の渋滞に関する反対意見が 2 件、安全性の考慮等のご意見と合わせて全部で 20 件ありました。再整備後の自家用車ロータリーへの流入経路の限定については、「泉町豊原町線の一方通行部分の拡幅整備によりアクセス強化を図ることを目指していきます」という回答、また泉町豊原町線の分断については、「周辺の交差点について交通シミュレーションを実施した結果、大きく渋滞が悪化するような箇所は確認できませんでしたが、道路形態が大きく変更になりますので、不案内な車両が発生しないよう頂いたご意見等参考に渋滞対策について関係者と協議していきます」という回答を考えています。 次に多かった意見は屋根、シェルターといった移動・乗り換え動線や滞留空間の屋根についてのご意見で、16 件ありました。これについては今後頂いたご意見等参考に検討を進めていきますが、皆さまがイメージしやすいよう基本計画の資料編に屋根の他都市事例等を追加します。 次に多かったご意見は立体利用に関するもので、歩行者スペースは 2 階にするべきという反対意見や、地下駐車場やペデストリアンデッキに関するご意見と合わせ、全部で 13 件ありました。これについては、「JR 静岡駅の改札・コンコースが 1 階であり、駅南銀座や森下公園などの地域のコンテンツおよび周辺道路へのアクセスが地上となっていることから、歩行者が地上を自由に往来できる形を目指していきます」という回答を考えています。歩行者が地上を自由に往来できる形を目指すことについては、非常に重要であるため改めて基本計画に掲載することとしました。 続いて JR 東海施設へのご意見が 13 件、広場東側の民間開発、誘導エリアへのご意見が 11 件、広場中央に配置を予定している建物へのご意見が 5 件、その他 25 件のご意見がありました。頂いたご意見を反映させた形で再整備基本計画を修正したため、改めて皆さまに基本計画全体をご確認していただきたいと思います。 それではお手元の資料 3 の 1 ページをご覧ください。1「はじめに」です。JR 静岡駅南口駅前広場は交通結節点としてのアクセス機能の不足や広場機能の不足といった課題を抱えている一方、大谷・小鹿地区における大規模な区画整理事業により今後周辺エリアの発展が期待されています。また将来的にはリニア中央新幹線の開通による在来新幹線の役割の見直し等も想定されます。 こうした状況下において今回の静岡駅南口駅前広場再整備基本計画は今後
--	---

の再整備に向け皆さまと南口の将来像を共有するとともに、その実現に向けての方向性を示すものにしたいと考えています。

右の図は基本計画の位置付けを示したものであり、その基本計画は上位計画に基づき南口駅前広場についてその隣接街区との関係性を考慮しながら、基本的な整備方針を定めることを示したものになります。

続いて 2 ページをご覧ください。JR 静岡駅周辺を取り巻く状況です。こちらは第 2 回検討委員会で行った駅南地区の位置付けを駅北地区との対比で検討した結果です。委員の皆さまから頂いたご意見をもとに駅南地区にあるコンテンツを生かし、地域で主体的に活用できる駅前広場を整備し、繁华性、目的性が高い駅北地区と連携を高め、駅周辺の回遊促進を目指していきたいと考えました。

続いて 3 ページをご覧ください。静岡駅南口を取り巻く状況です。こちらは第 1 回検討委員会で行った広場の利用状況について検討した結果です。静岡駅南口駅前広場から周辺地区へ徒歩での利用者が多く、また改札階およびコンコースが 1 階であるため、駅と周辺地区をグランドレベルでつなぐことで歩行者に優しい空間をつくることが望ましいと考えました。一方で新幹線利用者においては自動車での送迎が多く、この便利さを確保することも必要です。黄色の網掛け部分はパブリックコメントで頂いた、歩行者スペースは 2 階にするべき等のご意見の対応として、「改札階およびコンコースは 1 階であるため、駅と周辺地区をグランドレベルでつなぎ」という表現を追加しました。

続いて 4 ページをご覧ください。駅前広場に求められる機能です。こちらは第 3 回検討委員会で行った広場に求められる機能について検討した結果です。駅前広場には車両のための交通空間と人のための環境空間があり、広場内にはそれぞれに必要な空間・機能を配置する必要があります。そうしたさまざまな機能を確保した上で官民連携により駅、駅前広場、まちが一体となる空間を実現することが大切であると考えました。

続いて 5 ページをご覧ください。南口駅前広場の課題です。こちらは第 2 回検討委員会で行った南口駅前広場の課題について検討した結果です。これまでに市民の皆さまから頂いたお声や利用者アンケートの結果をもとに課題の抽出をしました。その結果、委員の皆さまからは公共交通利用者と歩行者のためのゆとりある施設が必要である。自家用車と公共交通の両者が使いやすいロータリーが必要である。多様な利用者に配慮した空間が必要である。歩行者の空間、南口が目的となるようなスペース、人のための空間が必要である。森下公園や駅南銀座、久能街道など地域の魅力ある場所と駅前広場が徒歩でつながるよう、将来を見据えたまちとの相互作用を考える必要がある

	といったご意見を頂きました。 続いて 6 ページをご覧ください。目指す方向性です。こちらは第 2 回検討委員会で行った南口駅前広場の目指すべき方向性について検討した結果です。5 ページの南口駅前広場の課題で抽出された課題を空間の不足と交通の混在、歩行者の快適性の欠如、駅とまちとの分断という 3 つにまとめつつ、「地域に開かれた未来につながるまちのロビーへ」というコンセプトのもと、目指す方向性として人と車、両方が使いやすい駅前広場をつくること、多様な人々が安心して利用できる広場をつくること、駅と周辺の街が一体となった空間をつくることを掲げました。ここでの多様な人々とは市民、来街者というだけではなく、障害を持った方や外国の方といった配慮を必要とする方々を包括し、多様な人々という表現をしております。 続いて 7 ページをご覧ください。ゾーニング・公共交通と自家用車の配置方針です。こちらは第 3 回検討委員会で行った広場機能のゾーニングと、公共交通ロータリーと自家用車ロータリーの配置方針の検討結果です。目指す方向性実現に向け、既存道路空間を広場に取り込み、歩行者動線を歩きやすいグランドレベルに確保するとともに、ゆとりある駅前広場をつくる。公共交通ロータリーと自家用車ロータリーを進入路の段階から分離し、混雑しにくい駅前広場をつくる。コンコース前に公共交通ロータリー、広場東側に自家用車ロータリーを配置するという条件のもとでゾーニング図を作成しました。黄色の網掛け部分ですが、パブリックコメントで頂いた歩行者スペースは 2 階に設置等のご意見への対応として、「歩行者動線を歩きやすいグランドレベルに確保する」という表現を追加しました。 続いて 8 ページをご覧ください。交通機能です。こちらは第 3 回検討委員会で行った各交通施設量に対する検討結果です。利用実態の調査等から必要な施設量の検討を行いました。各交通施設量はご覧のとおりです。各交通施設量について今後配置等の工夫により可能な限りの台数の確保を検討していきます。 ここで資料 3 の 18 ページをご覧ください。パブリックコメントで頂いた自家用車の乗車スペースが 15 台では不十分だと思う等のご意見への対応として、自家用車乗降場の台数設定についての資料編の記載を変更しました。利用状況調査から現在のロータリーの内外で乗降させている台数は、乗車が 19 時台ピークで 1 時間に 100 台、降車が 7 時台ピークで 1 時間に 122 台でした。仮に乗車と降車のピークが重なった場合は 1 時間に 222 台の自家用車がロータリーを利用することになります。 事務局で行った車流データの解析によりますと、ロータリーを自家用車で利用する場合の平均停車時間は 2.7 分となっております。現在の利用状況から
--	--

	導く計算上の自家用車乗降場の必要台数は 10 台となります。しかし皆さまの実感として 10 台では混雑してしまうのではないかという感覚がおりだと思ひます。その原因として現在混雑が予想される時間では乗車利用者が停車できないことを避けるため、早めに迎えに来る結果、長時間駐車となり混雑が発生しています。さらに降車利用者が二重に停車し、利用していることで混雑が悪化していることが考えられます。 そこでその対応の 1 つ目として、利用スペースにゆとりを持たせ、長時間駐車を抑制します。例えば 15 台程度を確保した場合は 50% のゆとりがある状態となります。可能な限りゆとりの台数を確保することで長時間駐車の抑制を目指します。対策の 2 つ目として、乗車スペースの増設に加え降車専用スペース 3 台を確保します。車流データの解析によりますと降車利用はおよそ 35 秒以内で利用していると考えられるため、3 台のスペースで 1 時間に処理できる降車台数が 310 台となり、現在のピークの利用台数 122 台に比ベ十分な台数であると考えています。 続いて資料 3 の 20 ページをご覧ください。パブリックコメントで頂いた駐輪場スペースを検討してほしいというご要望への対応として、駐輪場の考え方を資料編に記載しました。JR 静岡駅周辺に市営駐輪場が 5 カ所あり、駐輪台数に余裕があることから、現時点で南口駅前広場再整備時の駐輪場の新設は想定していませんが、今後分かりやすい案内など効率的に駐輪場を使えるような検討を進めていきます。 続いて資料 3 の 9 ページにお戻りください。広場の機能、まちのロビー空間を構成する機能です。こちらは第 4 回検討委員会で行った広場機能に対する検討の結果です。利用者アンケート結果などを踏まえ、南口駅前広場の再整備において「まちのロビー空間」を構成する機能として、「気軽に立ち寄れる憩いの機能」「お出迎えの機能」「人と文化の交流機能」としました。 続いて 10 ページをご覧ください。広場機能の配置の考え方です。こちらも第 4 回検討委員会で行った広場機能の配置に対する検討の結果です。広場内にお出迎えの場、気軽に立ち寄れる憩いの場、まちとつながるゆとりの空間や、それぞれの場でのアクティビティを支援するサービス機能を配置し、これら全体で人と文化の交流機能を確保することとしました。今後は雨に濡れずに歩いていける歩行者動線、乗り換え動線や滞留空間の屋根を検討していくとともに、持続可能でフレキシブルな駅前広場を目指し、グランドレベルは可能な限り広場空間とし、その上空部分は立体利用による屋内施設の配置を検討していきます。 パブリックコメントで頂いた歩行者スペースは 2 階にするべき等のご意見の対応として、「人のための空間をグランドレベルに確保する」や、「持続可
--	--

	能でフレキシブルな駅前広場」といった表現を追加しました。またコンコースを出た瞬間の開放感の確保についてもご意見があったため、「開放感のあるお出迎えの機能」という表現に変更しています。屋根、シェルターといった移動・乗り換え動線や滞留空間への屋根の要望については、今後引き続き検討していくことを記載しました。 続いて 11 ページをご覧ください。周辺とのつながりです。こちらは第 4 回検討委員会で行った、駅と周辺のまちをどのようにつなげていくかを検討した結果になります。南口駅前広場再整備を南口エリアにおける基幹プロジェクトとすること、駅前広場から周辺地区へつながる 5 本の軸を、駅南銀座や久能街道、周辺再開発ビル等多様な連携を可能とする軸と位置付けること、駅前広場と街をつなぐ回遊動線の構築を目指すこと、以上により駅と周辺エリアをつなげていこうと考えています。パブリックコメントへの対応で説明した泉町豊原町線の一方通行部分の拡幅整備によるアクセス強化を図ることを目指していくというのは、この個々の道路のうちの③の箇所になります。 続いて 12 ページをご覧ください。静岡駅南口駅前広場の将来の姿です。こちらはこれまでの議論を具体的な形にした現時点で想定される整備案となっています。左側に記載の現状課題を解決していき、目指す方向性を実現するため、右側の図のような再整備案を想定しています。 再整備案を検討した際に決定した条件はこれまでの議論のとおりですが、具体的には①、公共交通ロータリーをコンコース前に配置。バス乗降場を増やすなどし、公共交通を使いやすくする点。②、自家用車専用ロータリーを新たに設置。広場東側からのアクセスとし、降車場と乗車場を分離するとともに利用可能台数を増やす点。③、歩行者が駅からまちへと地上を自由に移動できる形とする点。④、石田街道における自家用車の通行が減少するため、余剰となった道路空間を活用し、貸切バス乗降場等の広場に必要な機能の配置を検討していく点。⑤、区画整理等の基盤整備により広場隣接地に民間開発を誘導する点となっています。また駅側広場中央部には地上部分に歩行者のための広場空間を確保しつつ、上空部分に民間活力を導入した建物を配置することを検討しています。 続いて 13 ページをご覧ください。南口駅前広場の将来の姿をイメージパースにしました。こちらについては動画も作成し、二次元コードを読み取ることによって皆さまにご覧いただけるようにしました。 続いて 14 ページをご覧ください。将来の姿の 5 つのポイントです。これまでの内容をどなたにでも分かりやすく見ていただけるように表現した資料になります。
--	---

	将来の姿の 5 つのポイントとして、ポイント 1、広場の面積を現在の約 2 倍に広げます。人と車がゆとりを持って広場を利用できるようにします。ポイント 2、歩行者のための空間をつくります。建物を配置するなどして、居心地が良くにぎわいが生まれる場所をつくります。ポイント 3、ロータリーを 2 つに分離し、コンコース前を公共交通、広場東側を自家用車ロータリーにします。ポイント 4、今ある道路を広場に取り込み、広場として利用することで歩行者が周りの街や建物に行きやすくします。ポイント 5、土地の形を整え、広場の隣に民間開発を誘導します。以上の 5 つを示しました。 続いて 15 ページをご覧ください。駅前広場整備のスケジュール案です。こちらはあくまで現時点でのスケジュール案であり今後の検討の深度化により変更することがありますが、今後は今回作成する基本計画に基づき関係者の皆さまと協議しながら広場の設計、実証実験等による空間の使い方の検証、駅前広場の利活用についての仕組みづくりを行い、それらを盛り込んだ整備計画案の作成を行います。 ページが飛びますが、最後に資料 3 の 22 ページをご覧ください。パブリックコメントで屋根を設置してほしいとのご意見があったため、参考資料として他都市の事例等を見ていただき、今後の屋根に対する検討のイメージを皆さまと共有するページを示しました。説明は以上になります。
中村（英）氏	ご説明ありがとうございました。パブリックコメントに関すること、そして駅前広場再整備の基本計画の案について、ご説明を頂戴しました。パブリックコメントに関しましてはこのような形で考えているというような形でコメントを返すといったことも説明があったわけですが、その部分も含めて委員の方々と共通認識が取れているのか、あるいは今日の席で改めて見てご意見やご質問があるかと思しますので、どちらからでも結構ですので自由にご発言いただければと思います。では最初に三浦委員から、どうぞお願いします。
三浦氏	遠方からの出席になってしまい、大事な会議に申し訳ありません。中央大学の三浦です。いったん事前にもご指摘した内容はだいたい修正いただいたのかと思いますが、まず改めて聞いていて気になったというか、アペンディクスのようなものかもしれないのですが、この検討ではせっかくいろいろな委員さんが入ってきて多様な意見を頂いたので、どのように決められていったかという、これまでの検討の経緯のようなものがあると、景観まちづくり課さんだけではなくてこういう委員会を開いて決めていきましたということが分かってくるので、もし可能であれば入れていただくのがいいのかなと思ったのが全体として見た時の 1 点目です。 2 点目が、グランドレベルやフレキシブルなどの言葉は、私たちのような専

	門的にやっている人たちは分かりますが、もしかすると一般の方からするとフレキシブルというのは空間的なフレキシブルさなのか、時間帯での使い分けなのかというのは分からなかったり、グランドレベルも要は屋外の地上空間と駅構内を含めた 1 階部分だと思いますが、それも分からない人は分からなかったりすると思うので、非常に重要なキーワードだと思っていますので、注釈を付けるなりして、きちんと理解していただくように補足したほうがいいのかなと思います。これがパブコメへの返答にもなっていると思いますので、それはあったほうがいいのかなというのが 2 点目です。 3 点目はスケジュール案のページですが、一番下に都市デザイン事業に触れた一文を入れていただいています。この委員会では駅広に関してやってきましたが、駅舎のほうも駅広の使われ方や環境にとって非常に重要になってきます。そちらは市長さんのご意見などもあっていろいろと変更があったり、今後も事業者さんとの話でいろいろご意見が出てきたりすると思いますけれども、今回参加者の皆さんにも、このデザイン事業というものについて、一言でもいいので解説いただいた上で、駅広空間の周りの環境がどういう会議体で構成されていて、それとこの委員会との関係性などもきちんと触れた上で、この一文を加えていただくのがいいのかなと思いました。基本的に大きくはその 3 点が気になりました。 最後はもともとと言っていた石田街道のところの貸切バス乗降場ですが、現状貸切バスが駐車されているからその空間を明け渡すという既得権益的な部分もあって、本来はもっと公益性の高いまちの表、ロビー空間から出てきたところの一番大事なところですので、より公益性の高い、滞在空間なのか新しい移動手段なのかというのはエリアマネジメントで今後決めていくことだと思います。本来はここはもっと多機能で考え得るところなので、それが伝わるような文章になっているかどうかというのは座長を含めてご意見を頂ければというところです。以上 4 点でした。よろしくお願いします。
中村（英）氏	どうもありがとうございました。4 点頂きましたが、事務局のほうで何かコメントはありますか。
事務局	先ほど三浦先生が言われたとおり、検討したプロセスであるこの検討委員会について記載していきたいと考えます。あとグランドレベル、フレキシブルという言葉のもう少し柔らかい説明を載せられればと思います。ここで言うフレキシブルは建物について、要は剛のものではなくてフレキシブル性を持って必要なことを地上でやっていきますという意味のフレキシブルですので、その辺を分かりやすく伝えられればと思っています。 また先ほど言われたように三浦委員にも委員になってもらっています都市デザイン会議というのが別途あり、それも今まさに現在進行中ですので、そ

	ことは一つ連携してやっていくようにします。あと貸切バスの乗降場スペースは、そのようにはっきり書くのではなく、また今後設計を進めて事業を進めていく上で、そこはよくよく注視しながら最も良い使い道を考えていくことだと思います。
中村（英）氏	ありがとうございます。頂いた意見を踏まえてさらに加筆をするなり、あるいは具体化の段階で考慮していくということですね。ありがとうございました。1点、すみません。3点目に言われたデザイン会議についてですが、スケジュールの下に記載のある都心地区都市デザイン事業というのとデザイン会議と、2つあるのですか。
事務局	違います。その都市デザイン事業の中でそういう会議体を設けています。
中村（英）氏	分かりました。特に何か具体のデザインをやっていこうというのではなくて、いろいろなものが起こってくる時に例えば調和を図っていくとか、吹っ飛んだようなデザインが出てこないように、そういうことを協議するようなテーブルが用意されているということですね。分かりました。ありがとうございます。他にご質問ご意見がありましたらお願いします。
増田氏	増田です。よろしくお願いします。先ほど三浦委員がおっしゃっていたところと重なるのですが、やはり専門用語が多いので、どこかに注釈を入れていただきたいなと思いました。あと14ページだけすごく親切に振り仮名が振ってありますけれども、誰をターゲットにしてそうしているのかなと思いました。14ページのような誰が読んでも漢字や難しい言葉が分かるように、他のページもそういう点では、全部やってというパワーがかかり過ぎるのかもしれないのですが、このページはすごく親切なので、この辺りの強弱の付け方というのは何かあるのかなと思いました。そこが気付いたポイントでした。
中村（英）氏	ありがとうございます。1点目は先ほどお答えがあったと思います。2点目はいかがですか。
事務局	14ページについては、前段整理の結果こういったところで集約されますよというのを1枚で分かるようにさせてもらいました。
増田氏	分かりました。そうなるとその前の12ページとなんとなくセットで分かるような形だといいのになと思いました。ありがとうございます。
中村（英）氏	ありがとうございます。では須藤委員、お願いします。
須藤氏	静岡大学の須藤です。今一通り全部通して伺って、8ページの交通機能のところの数字の話ですが、パブリックコメントのご意見などでもやはり台数が足りないのではないのかという指摘があったことに対して、それに対する回答として18ページで、シミュレーションして数の論理で押し通すというと、

	少し見ると強めの主張になっているなというのが、ぱっと感じたところです。 ここのポイントは、いろいろなシミュレーションや観察をしてみると、乗降場の必要台数は 10 台なのだというシミュレーションができています。それに加えてプラス 5 台以上確保しているから、非常にリッチな状況になっているのだということはきちんとお伝えしたらいいいと思います。 そこは明確にはこの参考を読まないと分からないような情報になっていて、ポイントとしてはこの 8 ページ目に 15 台以上と書いてあるところが、想定される必要数は 10 だけけれども、それに 5 を加えていると。さらに 15 で収まるような方法、例えば有料のゲートをつくる、つくらないという話もあったと思いますので、そのように市民の方々に 15 台できっちり使っていただけるような仕組みというのも引き続き考えていきますというように、よく読めば数のシミュレーションは分かるけれども、読まなくても足りているのだなということが分かるような情報を付け加えていただくといいのかなと思いました。
中村（英）氏	ありがとうございます。8 ページのところにもそういった背景というか、こういったことを考えて導き出されたものだということを書いてはどうかというご意見です。事務局、いかがですか。
事務局	18 ページに書いてある部分をもう少し分かりやすく表現を工夫したいと思います。
中村（英）氏	お願いします。他にはいかがですか。田代委員、お願いします。
田代氏	田代です。パブリックコメントも読んで、やはり今駅前広場が抱えるいろいろな課題を解決する方向だということで、基本的に賛成という言葉が多かったということで非常に良かったなと思います。私もいろいろな今抱える課題を解決している感じがすごくいいなと思っています。 その中で 1 つ多かった意見で、屋根が欲しいということと、それからもう 1 つ開放感が欲しいということで、少し二律背反的なところもあるかもしれませんが、これは両立できるのではないかなと。大きな屋根にする、透明な太陽光線が入るような部屋にするなど、いろいろ技術的な課題はあるかもしれませんが、例えば東京駅の南の八重洲口にもそのような屋根がありますし、ぜひいろいろな都市の屋根を参考にしてもらって、開放感のある屋根ができればいいなと思いました。 あともう 1 つは、パブリックコメントにもあったのですが、わくわく感があまり感じられないというコメントがありました。これはあと基本的な機能を踏まえた上で、いかに静岡ならではのデザイン、前も申し上げましたけれ

	ども、金沢駅の鼓門のように、静岡の伝統工芸、例えば駿河竹千筋細工のような伝統工芸を生かした何かモニュメント的なものがあって、基本的な機能を踏まえた上で静岡らしさというものができたらいいなということを感じています。
中村（英）氏	ありがとうございました。特に最後におっしゃった静岡ならではの、静岡らしさ。これから具体化していく中でいろいろなアイデアを頂きながら。
田代氏	ぜひ取り入れてほしいと思います。
中村（英）氏	そうですね。貴重なご意見だったと思います。ありがとうございます。浅野さん、お願いします。
浅野氏	この基本計画ですが、私が思ったのは、若者世代の認知度が少し足りないのかなというのがあります。前にInstagramのリールで見たのですが、南口ってこうなるらしいよと。建物の配置図など、そういうものを載せた投稿がありました。そのコメントを見ると、初めて知った、知らなかった、そういう書き込みがかなりありました。 ですから SNS を使っている若者世代、私の周りでもたぶんあまり知らない人が多いと思いますし、今後若者への認知というのが重要になってくるかなと思うので、そこで提案なのですが、だいたい基本計画はできていると思うので、それを 30 秒から 1 分ぐらいのイメージパースなども取り入れた動画にまとめて、SNS、Instagram か X か分からないですが、それに投稿してこのように生まれ変わりますというイメージも良くなりますし、認知度も高くなるのではないかと思います。以上です
中村（英）氏	ありがとうございます。非常に建設的なご提案を頂きました。今若者の認知度が低いという話もありましたが、この資料 1 にパブリックコメントの集計があって、意見の内容のグラフはありますけれども、提出者の年代などの情報は取っていませんでしたか。やはり若者からの意見は少なかったですか。
事務局	20 代からの意見も結構ありましたね。やはり 40 代、50 代、60 代が多いですが、20 代からも比較的意見を頂いています。
中村（英）氏	ただ、まだまだ認知度は低いのではないかと思います。
事務局	今浅野委員が言われたように、市もラインと X と Instagram はアカウントを持っていますので、そこで何か情報発信ができないか、方法を考えていきます。
浅野氏	それでしたら、お金を払うことになりますが、このように生まれ変わりますというのを広告で出してもいいかなとは思っています。そうしたらたぶんいろいろな個人のアカウントにも反映されて見られやすくなると思います。

中村（英）氏	ゲームをやっているとぼっと出てくる、あれですか。
浅野氏	インスタグラムのリールやティックトックで短い動画が見られるやつです。広告にしていると全然自分が興味ない内容でもたまに出てきます。私がよく出るのが、脱毛しませんかというものですが、でもその他にもこういうお祭りをやりますよというような、結構自治体がやっているものもよく出てくるので、そのようにしてもいいのかなと思います。
中村（英）氏	他にいかがですか。安本さん、お願いします。
安本氏	安本です。表紙でイベントの写真が実際に使われていると思いますが、中を読んでみるとあまりそのことに関して記載がないです。パブリックコメントの意見で駅前広場をイベントや遊びの場にする必要性が理解できないという意見が出ていますので、少しでもやはりそういう人に、イベントをすると人が集まってもらえるよという周知をする必要があると思います。やはりこういうイベントをせっかくやったらそのイベントで出た意見や、もっと前向きな明るい、こういうことができるよというところをもう少し打ち出したほうがいいのではないかと考えています。それこそ若い子だとイベントがあると行きやすくなったり、こういうことができるなら様子を見にいこうかなという気になったりすると思うので、やったならもう少しメインイベントの話も入れたらいいのではないかなと考えています。
中村（英）氏	ありがとうございます。広場の機能等については記載があるが、イベントの内容や結果についての記載がないという趣旨のご意見ですね。
名波氏	駅南銀座の名波です。今安本さんがおっしゃったように、イベント広場で去年の夏から3回ほどイベントを行いました。私は服屋をやっていますが、うちの息子がイベントを開いたのです。飲食店と洋服屋、うちの場合は古着屋をやっているものですから、古着のほうで出してみたら、若い人がものすごく集まるのです。2030年代前半にできるということで、それも今後ずっと続けていったらどうかなと考えています。それは駅南の方だけではなくても、みんな静岡市から、オール静岡で集めて、やってみたらどうかなということで私は思っています。すごくいいご意見を2人とも言っていただきました。
中村（英）氏	どうもありがとうございます。
事務局	15 ページに広場空間の使い方という項目が1つあります。まさにそれがそうです。私どもも非常に課題と思っていまして、今の駅前広場のルノワール像があるところの広場は全然使われていなかったのも、小さいながらも使え

	るよというのを示したかったのがその名波会長のところにもお手伝いいた だいてやった、「えきなんトライアル」というイベントになります。 これはできれば来年度も引き続き何かしらの活動をしつつ、新しく広場が生 まれ変わってもそれが生き続けるように、そこから発展してエリアマネジメ ントのことなども考えていきたいというのがこのスケジュールに書いた 広場空間の使い方という項目になります。このところを大事にしていかな ければいけないなとは思っています。
中村（英） 氏	ありがとうございます。気持ちは一緒だということですね。
事務局	はい。そうです。
中村（英） 氏	他にはいかがですか。牧野委員お願いします。
牧野氏	障害者協会の牧野です。こういう基本構想の段階から障害者団体が入るとい うのはとても珍しいことで、その点については非常に評価しているのです が、今回は広場というより私は駅そのものの機能のほうを重視しているもの ですから、皆さんに訴えている部分があるのですが、今回いろんな方々と話 をした時に、「多様な人々」という言い方でくくられているけれども、もっ と具体的なところがなければおかしいのではないかという話をしました。 移動に困難を抱えた人々という意味での障害者または高齢者の方々が、駅を 使うまたはもしかしたら駅前広場に集まるようにするには、やはりそれに対 する策を練らなければいけません。今回の場合は、現在の駅前ロータリーの 部分で私がずっと言っているように障害者の乗降場のところが、駅には近い けれども狭いところにつくってあるので、いろいろな意味で不都合がある と。その分は今後の新しい案の中で解決するのかという話をずっとしていま す。 障害者のほうのお話として今インクルージョンという発想があって、障害が ある人ない人、高齢の人でも女性なども含めて、ごちゃ混ぜの世界が本来の世 界で、それを区別するのは、区別というのは分離したり隔離したり排除した りするのは、よろしくないという発想ですけども、構想を作る段階からそ ういう人たちがいることを前提に構想を作ると。基本計画を作るということ をお願いしたいという話が、少しいメージとして分かってもらえるように、 皆さん気が付いたかどうかなのですが、今回の基本計画（案）のところで先 ほどのご説明になかったのですが、車椅子の人と盲導犬を連れた人がイラス トの中に入っています。その２人ずつが６カ所出てきますけれども、６カ所 同じようなところに入っているのですが、そういう人たちがいるよというこ とを前提にこの基本計画は作られているということについては、私としては

	非常に満足して、評価もしています。 移動に困難を抱えた人たち、社会に出てくるのが難しい人たちをどうしましょうかというのは、後から考えるのではなくて、最初から構想の中に入れましょうというのが私の基本的な意見です。今回のものはツインロータリーになって、バス・タクシーのほうは障害者の乗降場などが現在 10 メートルだと仮にすると、そこからもう 10 メートルぐらいは後退する、20 メートルぐらいにはなると思いますが、そちらは私たちはよしとしています。しかし一般車のほうの車椅子の乗降場のところが、ご提案いただいたのは 40 メートルぐらい垂直の距離として遠くなるということについて、それは障害のある人たちに対しては後退ではないのかという話をして、それに何らかの補完するような、またはそれを補うような策を考えてくださいという話は申し上げました。 でもそれは基本構想の段階ではまだ具体的なところは決まっていますのでというお話なものですから、その点は今後のことについてお願いをしたいのですが、市民に優しいという話は出てきましたけれども、障害のある人にとって優しい駅かどうかはここにいる皆さんが障害がある人か、障害がある友達がいないと、イメージできないと思うのです。そういう人が身近にいるかという話と、自分が体験するかどうかということについては、今後の具体的な整備をする時の中にはぜひ入れていただきたいというのが私の意見です。 基本的にまだロータリーの配置についてここで決定ではないと言われていましたので、今後のところでまたいろいろ皆さん、または障害のある人の意見を聞いていただいて、反映していただけたと思いますが、少なくとも視覚障害の人が一番ハンディがあります。その次が車椅子の方々です。車椅子の人というのは障害者ばかりではなくて高齢の方々もです。そういう方々が今後いったん増えてまた減るでしょうが、社会参加するようなことができるような駅、まちに出てこられる駅にするのが、広場のにぎわいも含めて必要なことではないかなと思って、そのことを最後に申し上げておきたいなと思って申し上げました。
中村（英）氏	ありがとうございます。何度かにわたって議論してきた内容で、結果的にはまだ引き続き課題が残っているのですが、先ほどのスケジュール案のところでも実証実験あるいは関係者協議・調整という言葉がいろいろ出てきました。今の話はたぶん使い方のところも関係するのですが、設計といいますか、まさに駅前広場の設計と密接に関連するので、これはたぶん一緒にそういったことを具体的なところでまたいろいろご意見を聞いていくことが大事だということだと思います。よろしく願いできればと思います。他に

	いかがですか。中村委員、どうぞ。
中村（直）氏	私はこの地元の森下学区に住む者として、また地域代表として来ている中村ですが、やはりこれから静岡市が人口減になるということで、今 68 万が 20 年後には 50 万になるということです。その時の人口比率がどのようになるのか、今若者の人口が膨れるという未来があまり 20 年後に考えられなくて、逆にキノコのような、ああいう形になって高齢者が非常に多くなるということの中で、この広場をどういう形の状態にしたらいいのかなと思っています。 それと併せて、われわれのところにおいてはこの交通体系も、今久能街道のほうに道路を広げてもらえるという形になっていますが、用地買収があるからできるのかどうかということも含めて、スケジュール的なものも含めながらまた将来的に今のものがうまくできるとよいと思う。われわれとしてもこの駅が駿河区の顔になるというか、そのように思えるような絵を描いていただいて、またそれが実行に移してもらえると、非常にいいのかなと思っています。 それから 1 階の利用について、要するにわれわれとしては、車ではなくて人です。静岡は一回地下に下りてまた向こうへ、駿河区へ行くということで、高齢者は渡れません。だからそういうものを含めながら、駅南のこのところをやるのに地下街も含めてどのように考えるかということは、皆さまの意見の中に入れて考えながら、話が最終的にはしてもらえるとありがたいなと思っています。
中村（英）氏	駅北との関係も考える必要があるというような話も頂きましたけれども、何か事務局のほう、コメントはありますか。
事務局	今中村委員が言われました南口と久能街道をつなぐ、泉町豊原町線というのですが、ここは今途中から一方通行になっていて、南口と久能街道をつなげる上で非常に大事なネットワークと思っていますので、今これは概略の検討をしています。その上で先ほど言われたように用地買収が絡みますので、それをどう事業化に持っていくのかで今まさに調整中ですので、できれば南口に間に合うように整備ができればいいなという希望を持って今やっています。
中村（英）氏	ありがとうございます。他にいかがですか。浅野委員、どうぞ。
浅野氏	田代委員が言ってくださったモニュメントについて少し考えていたのですが、すごくいい案だと思います。まずモニュメントを作るならいろいろ考える必要があるかなと思ったのが 1 つで、私は大学でいろいろなところに旅行するサークルに入っているのですが、それでもし行った先にモニュメント

	などがあつたら結構写真を撮っています。それがその土地らしさがあるものであればすごくうれしいですし、あとで見返した時に、ここに行ったなというようになると思うのです。 でも自己満足的なモニュメントだと、こちらからしても、なんだこれとなってしまうのもあって、新潟の地元にも結構あるのですが、キャラクターのモニュメントのようなものと自己満足的なものなのかなと感じてしまうし、写真を撮っている人も少ないかなという印象なので、もう少し誰に向けたものなのかというコンセプトをしっかりと確認した上で、インパクトがある静岡らしいものを作れたらいいのかなと思いました。
中村（英）氏	ありがとうございます。一番難しいところで、最大多数の合意というか、評価をするのが難しいことですが、そこもこれから伺っていく中でやはりいろいろな人のご意見を頂きながらやっていくのだと思います。ぜひそこに浅野さんも残っていただければと思います。ありがとうございます。だいたいよろしいですか。平井委員、どうぞ。
平井氏	JR 東海の平井です。ロータリーが駅から少し遠いのではないかと、ロビー空間は必要ないのではないかとというご意見があつたということで、ここの扱い方というのはこれからみんなでしっかり考えていって、市民に説明していく必要があるのかなということを再認識されたかなと思います。 そういう意味でなぜ広いように感じられたかというたとえば 13 ページの絵だとロータリーが広く感じるようなパースになっていたり、その辺に何もなかったりするので、その観点からここの空間の必要性というのをこの絵を見た直感としてそのように感じられる面はあつたのかなと思います。そういう意味でここの空間をどのように使うかというところのイメージが伝われば、ここの必要性、ロータリーが少し離れていくことに対してもご理解いただけるのかなと感じました。 また、前回の委員会が書面開催だったこともあり、この場でこの絵について委員会の中であまり直接的に皆さんと意見交換できていないのかなと思います。一つの案として 1 階レベルが地上レベル、グランドレベルで考えていくことになった中で、あえて 1 階レベルの空間を生み出して 2 階 3 階に人を上げていくということで、このどのように人を上げていくかということもたぶんこれからの計画にいずれ必要になってくる論点かなと思いますので、売り出していく顔を広場の分かりやすいところに設けたり、地上レベルの移動が基本ですが、みんなが上に上がっていきたくなるようなものをこれから考えることによって、さらに何もなかった広い空間にこういう静岡らしさを表現できるような施設の導入すること考えられます。 延岡の事例を挙げられていましたが、屋根の高さも 2～3 階レベルのエリア

	で段差を作り表情を変えるような工夫されていたりするので、少し参考にしながら静岡のこういう立体的なデザインと広場の使い方を考えるようにして、この広場の必要性というのを議論できればよいと思います。
中村（英）氏	どうもありがとうございます。また JR 東海さんにも実現に当たってさまざまご協力ご調整の要請があらうかと思いますので、よろしくお願いします。
中村（英）氏	他はよろしいですか。それではこれは具体的な、もう少し追記があったほうが良いというようなご意見を頂きましたので、そういったことについて修正もしていただきながら再考していただければと思います。
事務局	少し頂いたご意見をもとに再考しまして、今月末にはできれば公表に至りたいと思っています。
中村（英）氏	そうしますとある程度事務局にお任せというか、趣旨をくんでいただいて最後の案が取れるところについてはお任せしてよろしいですか。ではそのような形で今日頂いたご意見を再整理して反映をお願いします。
事務局	はい。
委員からの一言	
中村（英）氏	どうもありがとうございました。それでは本日議題の整備基本計画（案）についてはこのような形で、再度 3 月いっぱいの中でまとめていただけるとのことです。どうもありがとうございました。 では議事の 4 番目の事務局案についての審議はこれまでとしまして、冒頭事務局からご説明がありましたように本日をもちましてこの再整備検討委員会は最後ということになります。次第にも書いてありますけれども、各委員の皆さまから一言ずつお願いできればと思いますが、どちらから回しますか。順番に行くほうが分かりやすいですね。
藁科氏	しずてつジャストラインの藁科です。まずは事務局の皆さん、ここまでまとめ上げていただき本当にお疲れさまでした。ありがとうございます。自分もこういった委員会には立場上いろいろ出させてもらっていますが、今回の委員会については本当に幅広くメンバーを集めていただいて、よくあるこういう委員会だと肩書の付いたおじさんばかりという委員会が多いのですが、若い方からも本当に建設的な意見が頂けて、非常に良い委員会の流れでここまで来られかなと思っています。 これから詳細計画のほうに入っていくと思いますけれども、そういった中でも幅広いご意見を聞いていただいて、事務局のほうは大変だと思いますけれども、そこからわくわくするような施設ができればいいなというように感じています。われわれもバス事業者としてバスの関係についてはこれからもご意見のほうを出させていただきたいなと思っています。完成形はもちろんです。われわれが非常に気にしているのは工事期間中の公共交通機関の対応

	といったところも併せて引き続き議論させていただければと思っていますので、よろしくお願いします。
中村（英）氏	ありがとうございます。では根来委員。
根来氏	タクシー協会の根来です。どうもありがとうございました。私からも事務局の皆さん、本当にお疲れさまでした。これからがさらにますます大変になってくるかと思えますけれども、事業者の立場でまずお話しすると、一つはやはり長年の課題であったロータリーのほうの混雑解消、これが具体的に見えてくる基本計画をここまでまとめてきていただいたなということで本当に喜ばしくありがたく思っています。これから具体的な整備計画に入っていくということで、われわれもやはりそういう形として課題解決に向けた瞬間が見えてきましたので、運用ルール等よりしっかり使いやすい形にできるように取り組んでいきたいなと思います。 もう 1 点はそれこそ私も市民として参加させていただいた立場で、本当に今話も出ていましたが、いろいろな角度から、いろいろな質問からの意見を私自身も聞くことができたし、特に学生のお 2 人は本当によく勉強して積極的に意見を聞かせていただいて、私自身すごく勉強になったと非常に感じています。ありがとうございました。 ここまで基本計画ということで、とりあえずまずは土地の活用方法という形が見えてきたかなと思います。あとはやはり既存の課題解決にこだわらずに、先ほどの資料説明にもありましたとおり、やはり市民がわくわく感を持てるような、また静岡に来られた方たちが期待に胸膨らませられるような、交通結節点という言葉も出ていましたけれども、集いの場というだけではなくてここからさらにではここまで行ってみよう、日本平に行ってみよう、というような、やはり市のロビー空間という話もあったとおり足を伸ばしてもらえ、滞在時間を長くしてもらえような機能の充実、それをこれから盛り上げていただけたと思いますので、よろしくお願いします。どうもありがとうございました。
中村（英）氏	ありがとうございました。牧野さん、お願いします。
牧野氏	障害者協会の牧野です。どうもありがとうございました。私を入れるといろいろな意見がいて、事務局なり委員の皆さんが大変だと思うのですが、私もどちらかというと味方がいない中で立場上意見を言うのは大変だったのですけれども、今後の話からすると先ほど中村さんがおっしゃったように高齢になっている人たちを社会のまちのほうに出てくるような形にしないと、そういう人たちは家にいて静かにしているという話でいいのかという話なの

	です。 それを代弁しているという言い方をすると少し言い過ぎですけども、障害のある人たちは外に出てこういうところに出てきてしゃべるものですから、その主張は皆さん聞いていただきたいと思います。前に私が言いましたが、障害のない人が障害のない人のためのまちをつくるのではなくて、ごちゃ混ぜの中にいる障害のある人たちのことも考えて、その人たちの意見を聞いてまちをつくる、または広場や駅をつくるということをぜひお願いしたいと思います。 私はどちらかというと代弁している感じなので、できたらその次の委員会のようなものがあるのだとすれば、視覚障害の方々がたぶん一番皆さんが思う以上に社会に参加するのは難しい。その次が車椅子の人たちだと思いますので、高齢の人たちの代弁をするのは中村さんがするのかどうか分かりませんが、そういう人たちも含めてどんな具体的なものにしていくかということをご検討いただきたいと思います。どうもありがとうございました。
中村（英）氏	ありがとうございます。井藤委員、お願いします。
井藤氏	静岡市女性会館の井藤です。事務局の皆さま、お疲れさまでした。パブコメの件数がすごく多くて、びっくりするくらい厚いものが届いたので一つ一つ読ませていただいたのですが、そういうすごくたくさんの意見を頂いたことで、市民の関心度もすごく高いのかなと思いました。 その中で反対意見が本当に少なかったというのはこの委員会自体が、この前もお話がありましたけれども、私を含め多様な構成になっていたところが良かったのではないかと思います。そういう多様性があったところで意見が反映されたものなので、すごくみんなに受け入れられるこの基本計画の案ができたのではないかと思います。 これから始まるということ、これをベースにこれから考えられるということなので、これが全てではないとは思いますが、ぜひ本当に各委員からもお話がありましたけれども、多様な視点で計画が組まれることをすごく望みます。車椅子の方だけが車椅子ではなくて例えばベビーカーを押している人も同じように大変ですし、健常者、障害者という枠だけでは分けられないものもありますし、これからインバウンドが増えてということも考えられますし、少し余白を持った計画がここから進めていけばいいのかなと思いました。すごく自分自身も勉強になりました。ありがとうございました。
中村（英）氏	ありがとうございました。では増田さん、お願いします。
増田氏	市民公募で参加させていただいた公募委員の増田郁理と申します。どうもあ

	りがとうございました。事務局の方々、本当に丁寧にこの会議が始まる前にさらに一人一人説明したりという形で、こういった公共性のある委員会に参加させていただくのは初めてだったので、非常にそういった点ではありがたい機会を頂いたと思っております。 私も静岡に住むのは16年になるのですが、もともと南口に降り立ったところから自分の静岡生活はスタートして、いい意味で南口のほうはあまり変わらないというようなところがありながら、北口のほうは観光に合わせてどんどんいろいろと変わっていくというところで、今回先ほど申し上げたようにいろんなさまざまな意見が多かったということは、南口もその時代に合わせていろいろ変わっていったほしいなという思いが市民の方に多いのかなと感じた次第です。 話していく中で自分自身の専門がマーケティングとかコンサルティング業なのですが、その中でこういった委員で公共性のある委員をさせていただいた時に、やはり企業であったりすると誰のために、何のためにどうやって売り上げを上げていくのかというところがメインの中心の話になっていきますけれども、いろいろな方が関わってくるこの静岡駅南口なので、先ほども高齢者の方であったり障害を持った方であったり若者だったりいろいろなご意見があったのですが、今後もやはり誰を幸せにしていくのかというようなところを考えた上で、こういった話は進めていくのだらうなと感じました。まとめるのは広くてすごく大変だと思うのですが、でもきっと皆さんがいい方向にしていけるという気持ちがあるのだらうなと思いました。 変わることはすごくパワーが要ることだと思うので、なかなか市民の方がついていくのは大変だと思いますが、今後またぜひ皆さんですてきな静岡南口駅前広場にしていければと思っています。どうぞよろしくお願いします。ありがとうございました。
中村（英）氏	ありがとうございます。安本さん、お願いします。
安本氏	同じく市民の公募委員で参加させていただきました、安本花梨です。事務局の皆さん、お疲れさまでした。そしていろいろ説明など分かりやすく、なかなかこういうのに参加したことがなくて緊張する部分もあったのですが、事前にいろいろと準備していただいたので安心して参加することができました。ありがとうございます。 私は生まれてからずっと静岡に住んでいるので、静岡駅をよく使うのですが、やはりどうしても北口のほうが多くて南口は用がなければ行かないかなという印象があったので、今回この委員会に参加することによって若者の視

	点から少しでもいろいろな人にさまざまな視点から展開できる静岡駅になっていけばいいなと思い参加させていただきました。 実際に参加してみていろいろな方の意見であったり、自分では今まで持っていなかった視点を知ることができる、すごく貴重な機会になったかなと思っています。これから先も静岡駅はずっと続いていくわけで、再開発などどんどん進めていかなければいけない大変な部分も多いと思いますが、私は静岡が大好きなので新たないろいろなことにチャレンジしつつ静岡の良さというのを広めていっていただければなと思います。ありがとうございました。
中村（英）氏	ありがとうございました。では浅野さん、お願いします。
浅野氏	市民委員の浅野美幸です。事務局の皆さま、今回はこのような貴重な機会を頂きありがとうございました。私ごとではあるのですが、静岡に来てからこれで2年がたちました。初めて静岡に来た時のことをよく覚えています。その時は曇りの新潟とはうってかわって晴れの日で、受験の前日静岡駅に初めて降り立ちました。 まちなかや、目の前に立つスルガ銀行などを見て、期待で胸がいっぱいになったのを覚えています。私にとって思い出があるこの静岡駅南口の整備に携わることができて私自身とてもうれしく思っています。これからの南口にも期待がいっぱいです。改めて関係者の皆さまに深くお礼申し上げたいと思います。貴重な機会を頂きありがとうございました。
中村（英）氏	ありがとうございました。田代さん。
田代氏	田代です。事務局の皆さま、ありがとうございました。私も先ほど安本さんがおっしゃったように静岡が大好きです。転勤族で金融機関に30年ぐらいあちこち全国渡り歩いて、4年前に生まれ故郷の静岡に帰ってきたのですが、やはりこの静岡は最高だなと思います。この駅南が少し静岡らしくない、もっと全国に誇れるような広場になってほしいなということで公募委員として参加させてもらったのですが、駅南の魅力といいますか、いろいろな飲食店も、いいお店がありますし、それからいろいろなお店がたくさんある。その駅南にあるいいお店にぜひ南口から誘導して、もっと南口が栄えるようにいいお店を知ってもらおうということと、もう少し視野を広げると、久能山東照宮、登呂遺跡、日本平など、非常に無限の可能性を持っている静岡駅の南側にふさわしい玄関口として、生まれ変わってほしいと思っています。 いろいろな課題があります。交通整備や市民が憩える広場、あるいは障害者の方々が安心して日々できる広場にすると同時に、やはり最後は静岡市民が誇れるデザイン力、それがモニュメントだと思います。パブリックコメント

	には等身大の徳川家康がいい、それからガンダムを持ってくるのがいいなど、いろいろな意見があるかと思います。その意見を集約するのは難しいと思いますが、静岡市民が誇れる、伝統工芸が僕はいいと思っているのですが、何回も言いますけれども、金沢駅の鼓門のような、静岡市民が誇れるようなデザインを最後はそこに組み込んで、静岡に人をもっと呼んでほしいということで、そういう意味では JR 東海さんも非常に期待が大きいかなと思います。 JR 静岡支社のところも含めて大きな屋根、開放感のある屋根を、ぜひ JR 東海さんにも協力してもらって、そうするといろいろなところから静岡に観光客が来ると、結果的に JR 東海さんもうかるといいますか、利益になると思いますし、今日終わりますけれども、いろいろな意味でこれからも、一市民として大好きな静岡をなんとか応援していきたいなと思っています。本当にこの機会に参加させてもらって本当に良かったと思います。これからもよろしくお願いします。
中村（英）氏	ありがとうございます。名波委員、お願いします。
名波氏	駅南銀座振興会の名波です。田代委員が全て言ってくれたものですから、言うことはあまりないのですが、委員によってはいろいろな意見が出てくるなということで、私は商業として駅南銀座の代表として来ているものですから、今後駅を出て南に東に西に、またこれも北へ行けるこの動線を思い切りつくってイケたらなと思っています。 駅南銀座も何年後かは分かりませんが、改修工事に入り、駅と色を合わせ、同じ形でつくってみたいなと思っています。そういうことを駅南銀座の魅力を出しながら、わくわくするようなお店づくり、商業施設を持ってくると、そういうことをやってみたいなと思っています。 今回のこの委員会というのは僕はすごく感心したのは、先ほどもおっしゃったように安本さんと浅野さん、この 2 人がいなければ本当にこういう意見は全然出てこなかったのではないかと思います。よくうちの息子ともこのことについて話をしたりするのですが、一緒のことを言うのです。 今日も SNS の話が出ましたが、先ほどの話、静岡市というように出せば全てが SNS でば一つと出てきて、駅南の南口が全部出てくるような、ああいいうのも本当にいいのだという、そこを息子が言ったのです。見事だなと思って。僕はここへ来て本当にこの 2 人に頭が上がりません。拍手をしたいと思います。1 年間いろいろありがとうございました。今後ともよろしくお願いします。
中村（英）	ありがとうございます。中村委員、お願いします。

氏	
中村（直）氏	どうも事務局の方、ありがとうございました。私も本庁の 15 階に行く機会があって、時々事務局の方々とお話する機会があるのですが、非常に苦労されています。その苦労は私もこういう立場上建築の関係の仕事をしているものですから、興味深くお伺いしながらやっているわけです。 私も静岡市の戦後から、言ってみれば歴史が自分の年と同じ年です。もう 80 を越えました。そういう中で若い人たちの意見を聞くということはなかなか少ないことではありますけれども、昭和 20 年から戦後駅舎が 3 回変わっています。木造で平屋で、今のどこかの路線の駅のようなところが静岡駅です。そういうところからだんだん今のような立派な駅舎になる、その時の JR の発展とともに静岡市が二分されています。鉄道と国道 1 号線で北と南が全くまちが違います。 われわれは駅の南にいますからまちに行こうと。まちとはどこですかと。駅北がまち。駿府城のあるところがまち。われわれは何ですか。駅南だと。そういうところからやると、私は静岡らしいこの広場。この駅に、今静岡県で新幹線駅が 5 つありますけれども、一番乗客の多いのが静岡市です。県都ですからね。その意味では JR の皆様方にも県都らしい駅にと思いながらも、今のような建物が、あれが県都の駅かどうか私は分かりませんが、そういう中でいろいろとする中で、私から昔のように、鉄道と 1 号線で遮られた人の流れをなんとか平面的につなぎたいというのが、ずっと何十年という夢でありました。結果的には自動車など、そういうものに、人間よりもそちらの車のほうが産業的に多くなる、経済的なベースに日本自体が走ったということが、僕は一番つらいなと思っているわけです。 だからそういう意味では今回こういう話があった時に、できれば北と南が一体となってどのように開発したらいいかなというところまでの話ができると、僕は一番良かったなと思っているわけです。そういう中でも昔のこと以上に、今 JR さんがコンコースを、自由に通れるようになったということはすごくいいことだなと思います。それ以上にもう少し地下道をつくるなどいろいろなものがありますけれども、そこも含めながらわれわれの最後のとりです。とりでが今の駅南口の広場です。 静岡駅から、西に行くと安倍川駅がある。東には東静岡駅がある。草薙駅がある。清水駅がある。5 つの新幹線の駅にどういった人たちが来るのか。JR を通って他の人は来るわけです。この人たちはここの静岡の駅からいいところ 2 キロぐらいの範囲でしかこの駅へは乗らないでしょう。 そういう中でこの駅をどういう形に、静岡市の今の全体の 70 万の都市の駅にするにはどうしたらいいかといったら、北口はまた改修します。そうする

	と今の南口のところを最後のところとして、どういう駅の広場になるか、人をどうして集めたらいいかというところを、自分自身にもいつもお願いしてこうしている、こうしていると言って、いつもお話ししますが、なかなかそれはいろいろな意見がある中で、今日はだいたい中村委員長のところでお納め願えるかなと思っています。今までは計画というよりも企画の段階かもしれませんね。もう少し行くと計画のところまで行くのかなと思いますけれども、その辺も含めながらここまで皆さま方と一緒に話しさせていただいたことに対して、御礼申し上げます。本当にありがとうございました。
中村（英）氏	ありがとうございました。鈴木さん、今日は代役ということですが、ご感想でも結構ですので、一言頂けますか。
鈴木氏	静岡南警察署の鈴木といいます。本日は委員の大坪に代わって出席させていただきました。まず初めに静岡市の顔である静岡駅の整備という貴重な会議に出席させていただき、ありがとうございます。今後は交通管理者としてこの検討委員会を通じて作成された基本計画をもとに、静岡市の方と併せて検討を重ねて、安全安心な交通環境の整備に努めていきたいと思いますので、よろしくお願いします。
中村（英）氏	ありがとうございます。平井さん、お願いします。
平井氏	JR 東海の平井です。私の言おうとしていたことは全部出てしまったのですが、鉄道事業者として駅とまちをつなぐ結節点である駅前広場の利便性向上と魅力向上というのはとても大切なことということで、受け止めていまして、そういう観点でこの委員会で皆さまと積極的な意見交換をできたことに本当に感謝しておりますし、ここまで丁寧に準備、進行していただいた静岡市さんに本当に感謝しています。ありがとうございます。 計画上、東西方向の市道を駅前広場に取り込むということで、本当にここは大胆な発想で全国的にもなかなかチャレンジングな構想になったなということで、ただそれを考える上では地元と丁寧な調整ということで静岡市さん中心にかなり苦労されたと思いますが、ここまで基本計画という形になったということで、先ほど来出ていますが、まちと駅をつないでいく上で、道路が歩行者からすると分断されていたというところが 1 つ取り払われるということは、非常に大きな意義のある計画になったのではないかなと思っています。そういう観点からすると、北側のほうに話がだいぶ今進んでいまして、国道 1 号の分断という話もありますので、将来的には南口そして北口の駅前広場の整備にもつながっていくといいのかなとは思っております。 2 点、思っているところがありまして、先ほどから話が出ている多様性とい

	う観点で、非常に重要なキーワードだと思っています。やはり時代とともにニーズも変わってきます。使われる方など人も変わっていくので、駅前広場も単純に自動車、バス、タクシー、だけでいいのかなど、広場の使われ方はニーズも変わってくるかもしれないので、そういう観点で私は最初のほうでいろいろなモビリティなども視野に入れて将来考えていけるといいかなということで意見させていただきましたが、先ほど三浦先生の話にありましたように、石田街道のマルチモーダルゾーンという、三浦先生の言葉が印象的で、いろいろ変わっていく、技術も変わっていくし使い方も変わっていくので、それは多様性の部分ですね。そこは引き続き計画をブラッシュアップして、5年以上先の計画、整備になってくると思うので、やはりそこは長期的な視野を持ちながら計画を深めていければいいのかなと思います。 もう1つ、可変性という言葉も大切なキーワードかなと思っています。可変性の範囲をどこに広げていくか、どこまでを可変的に考えるかということも、デザイン上もそうですし機能上もそうですし、利用者も変わっていくということで、可変性の範囲をみんなで自分なりに考えていながら、この駅前広場を最終的な整備のところまでまずしっかり持って行って、つくって終わりではないということです。やはり駅前広場をみんなに愛されて親しまれるような空間にしていくためには、みんなで市民含めて使い方を考える、維持管理していく。維持管理が本当に大切なことになってくると思うので、維持管理する中で可変的なところもみんなで考えながら、より良い駅前広場に発展していけるような形になっていくといいのかなとは思っています。 私は役柄上いろいろとこういう委員会に出席させていただいていますが、本当にこの静岡駅の委員会というのは非常に有意義な意見交換ができたと思っていますし、私にとってもお気に入りの委員会でした。以上です。
中村（英）氏	ありがとうございます。須藤委員、お願いします。
須藤氏	静岡大学の須藤です。まず多様な意見を取りまとめていただいた事務局さまにお礼申し上げます。委員の皆さまにも本当にいろいろな意見を頂いて僕も非常に勉強になりました。今の平井さんのお話にもありましたけれども、可変性の話というか、今回つくったのはあくまでも計画で、まだ全部の問題解決に対してこれが全部有効かというところはまだよく分からないところもあると思います。牧野さんがおっしゃられたことが印象的で、やはりまだ動線に関しても十分に考えられていない、それは課題であるというのはそのとおりだと思います。なのでまずはこの基本計画に基づいて具体的ところに次に進むということで、まずはファーストプランとしては今回いろいろな多様

	な意見を反映できたのではないかと私も思っているところです。 僕は専門は心理学なのですが、人間というのはやはり変わらないものだと思はずっと思っていて、物はいえられるのです。デザイン、設計したものはお金をかければ直したりすることができますので、そういう意味ではまずは一回チャレンジしてみるというところで最初のステップをどんどん進めていって、また時間、時代とともにやはりいろいろなニーズも変わってくるし、人もこれから人口動態も変わってくるというところで、変わるということを前提につくっていかなければいけないのだろうなど、私も常々思っていることです。 そういう意味で今回はこういう多様な方々が集まっていろいろな意見を集約できたというのは重要な証拠になるなと思っていて、定期的に使い方を見直すとかことをやれるような仕組みも今後やはりあったほうがいいのかなと感想として思っています。 若い委員の方もいらっしゃって、やはり多様な意見が今回反映できたというのはそのとおりだと思います。今後もまちづくりの中でこのような多様な方々と一緒に考える時間があると、とてもいいまちづくりにつながると思いました。ありがとうございました。
中村（英）氏	ありがとうございます。三浦委員、最後に一言と思っていますが、聞こえていますでしょうか。
三浦氏	はい。皆さま大変、常に熱意のあるというか、これまでもそうだったのですが、一言一言本当に静岡のこの駅、またまちへの愛情にあふれるご意見だなと思って、こうした委員会に外のほうからですが携わらせていただいて本当に感謝申し上げます。ありがとうございます。私のほうから公共空間の運営などの面から意見申し上げてきたのですが、今後この基本計画に基づいてきちんとしたデザイン提案ができるような方々に、この意思をしっかりと伝えていけるような基本計画になりますように、また引き続き事務局の皆さまにはぜひブラッシュアップしていただければと思います。 静岡市の行政の皆さんは、私はいろいろなまちで関わらせていただいているのですが、本当に関わったまちの中でも日本でトップレベルの、勉強家と言うとすごく失礼かもしれませんが、大変いろいろなことを吸収されて、かつそれをブラッシュアップ、研さんしていくのに時間をかけられて、かつ一生懸命伝えようとされていて、本当に熱意もそうですし、努力もそしてその能力も非常に整った行政職員の方々がいらっしゃるまちだなと思っていて、すごくリスペクトしています。他の委員の皆さまからありましたけれども、難易度は高いと言いつつも、こうした方々が携わっているからこそ静岡では実現していけるのではないかなと思っています。

	一方でやはり行政の皆さんが結構しっかりしている部分もあるからこそ、まちの皆さん、民間の皆さんとうまく関係性をより良く、さらに築いていくという段階になってくると思います。フレキシブルという言葉が先ほども話題にありましたけれども、まさしくフレキシブルさを担保するのはまちの皆さんであり、民間の皆さんと議論していった、ルールや仕組みづくりをしていくということがあってこそそのフレキシブルだと思います。 そうしたことを社会実験なり、あるいは社会実験に伴ってこうした会議室ではなくてまちに出た一角で、もう少しチームでディスカッションしてみるなど、今後そういうまた変わっていく中でもいろいろなチームづくりというのが工夫はできていくと思います。またそのプロセスがここの絵に描いたまちのあり方を決めていく部分もあると思いますので、ぜひ引き続き、行政の皆さんもそうですけれども、民間の皆さんもいろいろなまちなかで場を提供していただいて、この駅について考える、駅周辺のことについて考えるということをやぜひご協力いただけたらいいのかなと思います。まずはこのメンバーでかもしれないですし、またさらに輪を広げていただけたらありがたいです。私もまた参れたらと思います。本当にありがとうございました。お疲れさまです。
中村（英）氏	どうもありがとうございました。最後に私からも一言、お礼を申し上げたいと思います。今日、オンラインも含めて全員の委員に参加いただいていますけれども、各委員の方々には本当に前向きな意見を賜りまして、今日なんとか基本計画の案が 9 割方まとまったというところに来ました。本当にありがとうございます。お礼申し上げたいと思います。また静岡市事務局のほうもいろいろ調整、相談、されながら、やってきたことをまずは敬意と感謝を申し上げます。ありがとうございました。 この委員会はずっとこのように報道の方がたくさん来られているということもありまして、非常に関心が高かったのだなと常日頃感じていたのですが、今日のパブリックコメントでも八十数名の方々の意見があるという、これは本当に珍しいことでして、その意見も非常に建設的なご意見が多かったと思います。ありがたいことだなと思っています。 ただそうはいってもこれで 3 月中にこの基本計画（案）がまとまることはまだスタートラインだと思います。これからいろいろなことが具体化していく中で、さらに難しい問題にぶち当たるのだろうなとも思いますので、委員の方々そして市の方々、引き続きご指導いただきながら次に向けて努力していただければと思います。 私も今回この委員会に参加して非常に楽しかったと言うと語弊があるのですが、刺激的だったのは、特にお 2 人の学生の委員の方々が積極的に参加協

	力をいただいて、特にびっくりしたのは AI で作成したイメージの画像を出された時に、すごいなと思いました。それに負けじと市のほうもシミュレーションの動画などを出されていたのかなと思います。あと私は 8 月に駅のコンコースのところでやられたオープンハウス、あれも行かせていただいたのですが、バーチャルリアリティなど、本当に具体的にイメージを伝えようという努力もありますし、今の技術を使ってそれをできるようになってきているという実感をしました。 とは言いながら、今日また聞いて若い学生の方の案が伝わって。たぶん新聞や市報あるいはテレビの夕方のニュースなどご覧にならないのだろうと思いますが、そういうものも含めてこれから幅広い市民の方にはしっかりとお知らせもし、いろいろなご意見を伺い参加していただきながら具体化をして、それが次の大事なミッションだと思いますので、期待をしつつ今日のこの委員会の大役を終わりにしたいと思います。本当に皆さま方に大変お世話になりました。ありがとうございました。それでは予定をした議事は以上です。進行を事務局のほうにお返ししたいと思います。
事務局	中村委員長、委員のみなさま、ありがとうございました。 駅前広場は、皆様ご存じのように各駅ですべて違います。そのため、この南口駅前広場の検討にあたり我々担当もいつも迷いながら進めています。今、委員の皆様から一言いただき、改めて皆様が各分野の的確なご意見をお持ちであることが分かりました。今後基本計画に基づきデザインを含め、設計を進めていきますが、そこでも迷いが発生すると思います。その際には、またぜひ助言をいただきに上がりたいと思います。よろしくお願いします。 それでは、以上をもちまして、第 6 回静岡駅南口駅前広場再整備検討委員会を閉会とさせていただきます。 長時間に渡るご審議ありがとうございました。